

ルポ

心の性を求めて

②

第2部「手探りの日本」

「中学3年の時に『女っぽい』という理由でいじめられた」。ズボンを脱がされ、受け入れられないと感じていた男性の体をさらされた。約5年前、タイで男性から女性の体になる手術を受けた石川理江さん(43)。ショックは今も記憶に刻まれている。

思春期、性同一性障害(GID)の人にはさまざまな葛藤が押し寄せる。幼少期から心と体の性が一致しない違和感を抱き、10、15歳ごろで迎えるときされる第2次性徴。感覚の隔たり

2次性徴抑制療法

早期治療で悩み軽減

が大きくなり悩みは深刻になる。

石川さんのクラスメイトもそれぞれ男らしく、女らしく成長した。「男っぽく振る舞ってみただけで、うまくいかなくて空回りした」。戸惑う石川さんの態度がいじめに拍車を掛けた。

石川さんはいじめに苦しんだ頃、GIDを知らなかった。「自分は男なのに女

になりたいと思っっている姿、2次性徴を再開できないのか」と悩んだ。親にも長年打ち明けられず、つらい経験から20代で何度か自殺を図った。

こうした事態を避けるため、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

を、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

を、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

を、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

を、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

を、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

を、思春期から治療する道がある。ホルモン治療の一種である「2次性徴抑制療法」は、男女とも体の変化

岡山大病院ジェンダーセンターの中塚幹也医師



た例もある」

中塚医師らは2次性徴抑制やホルモン投与も公的医療保険の対象とするよう国に働き掛けている。「性別適合手術が保険適用になつても理解が広がってほしい」と訴えた。